

萩循環まあるバスの定期券の運賃（案）に対するご意見の概要と市の考え方

ご意見の概要	市の考え方
一般定期券3,000円等の算定根拠や想定する月間利用回数、ならびに「定期券を導入してほしい」という市民の声をどのように把握したのかを示してほしい。将来的な運行の持続可能性と利用者の利便性の両面から適切な運賃水準を検討することが重要であり、どのような利用者にメリットがあるのか利用頻度ごとの負担額の具体的な比較を市民に示すことが、結果として定期券の利用促進にもつながるのではないかと。	今回お示しした定期券運賃（案）は、通勤や通学等で月21日（往復利用で計42回）ご乗車いただくケースを想定し、運行事業者における一般的な定期券割引率（通勤定期等は約3割引、通学定期は約4割引）を適用して算定したものです。これにより、月に15日（計30回）以上ご乗車いただく方にとって、金銭的なメリットが生じる運賃設定としております。 また、本市では日頃から寄せられるご要望等を通じて、定額での利用による運賃負担の軽減に加え、「小銭を用意する手間を省きたい」といった利便性向上を求めるお声があることを把握しております。 今回の運賃水準につきましては、こうした市民ニーズにお応えしつつ、極端な運賃引き下げによる収支悪化を招かないよう、運賃収入や市の財政負担への影響を十分に考慮し、利用促進と将来的な運行維持を両立できる適切な水準として案を作成したものです。本案をもとに、今後開催される法定協議の場において、交通事業者等の法定メンバーと十分な協議を行い、最終的な運賃水準を決定してまいります。 定期券を購入するメリットを分かりやすくお伝えすることは、ご意見にありますように、利用促進の観点からも非常に重要であると認識しております。運用の開始に向けた周知の際には、ご提案いただいた「利用頻度ごとの通常運賃と定期券の負担額の比較」などを提示し、市民の皆様が購入を検討しやすい広報に努めてまいります。